
未定 今度決めます

アルティ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未定 今度決めます

【Nコード】

N5029Z

【作者名】

アルティ

【あらすじ】

普通の高校生は実は神の生まれ変わりだった！？

神の力を取り戻すために試練に立ち向かう！

前置きのもの（前書き）

しろーとの作品なので文章とかむちゃくちゃだったかもしれません
その時はどこが変だとか教えてください

前置きのもの

今、この世界に人間がいるのは、その人の親がいてその親にも親がいる。そうやって人は増えてきた。

そしてもつともつと遡っていくと、最初の生命がいる。

その最初の生命を作ったの誰か。大自然の中で生まれたのかはたまた神のという存在か・・・

神を信じている人はいるが、当然信じていない人もいる。

科学的根拠もない。そうしたらこの世界を作ったのは誰なのか神はほんとうにいるのか・・・

もしいるとしたら、今何をしているんだろうか・・・

それは、本当に神なのか・・・

第一話（前書き）

これからストーリーが始まります

第一話

「おい。起きろ！」

先生の呼びかけによって起こされた。どうやら授業中だったらしい。

「全く、お前はいつになったら・・・」

キンコンカンコン

ちょうどいいタイミングでチャイムがなってくれた。

「しょうがない。今日はここまで。予習やっつけよ。」

やっと授業が終わった。1日でコレほどだるいものはない。

「お前、昨日寝てないのか？目の下くまあるぞ？」

クラスで一番仲がいい友達、桜木翔さくらば しょうが心配して話しかけてくれた。
ありがたい。

「いや、大したことないよ。」

「そうか？でも今日はゲーセンとか行かないで真っ直ぐ帰れよ。」

「ありがとう。そうするよ。」

いつもなら友達と一緒にゲーセン行ったりしてから家に帰るのだが
今日は無理そうだ。

俺が今日、疲れ気味なのはもちろん理由がある。

俺の家は学校からそう遠くない。

家につき、ドアを開けると・・・

「お帰り！」

一人の少女が迎えてくれた。

そう。この少女が俺の疲れの原因なのだ。

第一話（後書き）

まだ主人公の名前が出てないですねw
次ぐらいに出る予定です

第二話（前書き）

二話目です

第二話

「おかえり！」

笑顔で迎えてくれたこの少女との出会いは、昨日の夕方まで遡る・

・

いつも通り友達とゲーセンで遊んでから家に向かっていた。
ここまではいつも通りだった。

陽気な気分で家に向かってしていると、声をかけられた。

「見つけた！」

声をかけられたと言っても、後ろで声が聞こえただけなので、
無視をした。そうしたら・・・

「そのあんた！貴方、神羅大翔しんらやまとでしょう！」

俺はこういうのは基本無視するのだが、名前を呼ばれたなら仕方がない。

無理向いて応えてやった。

「そうだけど？なんのよう？」

振り向くと、むちゃくちゃ可愛い少女がそこにいた。

不覚にも見とれてしまった。

「やっぱりそうだ！！やっと見つけた！」

うれしそうだ。目が輝いている。可愛い。

ちがうちがう。何見とれているんだ俺は！？

「・・・誰？」

まあ、普通こう聞くよな。

「おっと。失敬失敬。私は小桜杏璃こざくらあんり。驚かずに聞いてください。

まず、貴方は神の生まれ変わりです。そして私は、貴方の下僕です。

「

「・・・はあ！？」

驚きすぎてつい声が出てしまった。にしても、俺が神？この子が下

僕？何を言っているんだ

頭おかしいのか？

「・・・あの、頭大丈夫ですか？よかつたら病院まで送りますよ？」

「正常よ！！だから貴方は神の・・・」

「もしそうだったら証拠は！？」

混乱しすぎて分けがわからん。

「証拠なら、ほら、貴方の苗字に神っていう文字が・・・」

「そんなん証拠といえん！」

「・・・いいわ。そんなに言うなら証拠を見せてあげる。」

今俺の頭は大混乱していた。していたと思ったら、次は頭が痛くなってきた

気がついたら異様な空間にいた。

第3話（前書き）

やっとおおまかな設定の説明を終わりました

第3話

異様な空間といっても、真っ白な世界に真っ黒なボールがいくつも浮いている。

いくつもいくつも。数えきれないくらい浮いている。

そして奥には、俺と全く同じ姿をした男が浮いていた。気味が悪い。

「お前、杏璃って言ったっけ？ここはどこ？」

「ここは貴方の中。あのボールは貴方の今までの記憶。そして奥にいるのは、

神としての貴方。」

正直、コレを見て信じない人はいないだろう。いや、信じざるを得ない。

「コレでわかったでしょう。」

「・・・わかった。信じよう。それで、俺は何をすればいい？お前はなんのためにいる？」

「この世界は、神を失って長い時間が経ちすぎた。そのせいで、バランスが狂い始めている。だから再び神として復活し、世界のバランスを元に戻さないとけない。」

「・・・要は世界を救えばいいんだな？」

「そういうこと。なんだ飲み込みが早いじゃない。」

そのまま俺たちはとりあえず俺の家に行き場所がないという彼女をここに住ませてやり、

頭の中を整理していたら夜が開けた。

と言う訳で疲れていたのだ。

回想終わり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5029z/>

未定 今度決めます

2011年12月20日22時49分発行